

## 二つの外国船遭難事件から歴史を探ろう

和歌山県 公立小学校教諭

## 1. はじめに

朝の会のニュースで、Aくんが、「昨日のニュースで、和歌山県の串本で外国の船が遭難したときに、みんなで助けたことを記念して、たくさんの人たちが集まっていた」という紹介をしてくれた。子どもたちに、串本町に記念碑や記念館があることを話し、行ったことがあるかを尋ねた。しかし、一人も行ったことがないという返事であった。そこで、地図帳を出して調べてみた。そうすると、二つの外国船遭難事件が見つかった（右図）。

## 2. エルトゥール号の遭難

はじめに、朝のニュースでできた記念碑になっている遭難事件について調べた。すると、1890（明治23）年、オスマントルコの特使一行をのせたエルトゥール号が、暴風雨のために遭難して、587人の乗組員がなくなったことがわかった。さらに、串本町の人たちが暴風雨の中を助けにでて、69人の命を救い、なくなった人たちをとむらったことがわかった。その遭難事件と串本町の人たちへの感謝とを込めて、記念碑や記念館が造られたのである。この遭難事件については、「エルトゥール号の遭難」という絵物語もある。今回は、道徳の時間を活用して、その物語を読むことにした。地図帳の活用が、道徳の学習に結びつくことになったのである。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.28

## 3. ノルマントン号の遭難

もう一つの遭難事件であるノルマントン号についても調べた。1886（明治19）年、イギリスのノルマントン号が暴風雨のために遭難し、イギリス人乗組員だけが助かった事件であることがわかった。この事件は、条約改正の大きな引き金ともなり、教科書でも取り上げられている。子どもたちは、どうして横浜から神戸まで船で行ったのかということに疑問をもった。そこで、地図帳で調べてみることにした（下図）。すると、東京・徳島間の航路が、今でも18時間で結ばれていることがわかった。

条約改正については、和歌山県出身の外務大臣陸奥宗光が、この事件の世論を背景にして成功することができたのである。

ノルマントン号事件と陸奥宗光という二つのキーワードを通して、明治時代の大きなできごとを学習することができたのである。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.17